

設計を弱体化させる間違った部品表(BOM)!

「強い設計」を実現させる設計改革手法と設計システムの実践講座

～BOM・PDM・PLM・3D-CAD導入をムダにしない、真の活用方法とは～

日時 2019年 **12月12日(木)** 10:00～17:00
(9:30 受付開始、休憩 12:30～13:30)

主催  **日刊工業新聞社**

会場 **日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場**
(大阪市中央区北浜東2-16)

受講料 **44,000円** (資料含む、消費税込)
*同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円
*後日、別の方が追加で申込をされる際は、備考欄に先に申し込まれた方のお名前と複数割適用希望と記載ください。
(記載が無い場合は通常料金のご請求となります。予めご了承ください)

大阪会場(日刊工業新聞社 大阪支社10階)
大阪市中央区北浜東2-16 TEL:06(6946)3382

*天満橋駅(京阪電車、地下鉄谷町線)下車徒歩3分
■新大阪駅から地下鉄御堂筋線(新大阪→淀屋橋)北側出口 乗換、京阪電車(淀屋橋→天満橋)西改札口
■大阪駅から地下鉄谷町線(東梅田→天満橋)北側2番出口



日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場

〒540-0031 大阪市中央区北浜東2-16
※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。
※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

●申込方法

申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからお申し込みできます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。
なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義	りそな銀行	東京営業部	当座	656007
㈱日刊工業新聞社	三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
	みずほ銀行	九段支店	当座	21049
	三菱UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申込先 日刊工業新聞社 総合事業局 教育事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail: j-seminar@media.nikkan.co.jp

受講申込書	12/12 アンチBOM		お申し込みは FAX 03-5644-7215	
	■受講料: 44,000円 (資料含む、消費税込) *同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円			※振込手数料は貴社にてご負担ください。
会社名	フリガナ		業種	
氏名	フリガナ	部署・役職	TEL	
			FAX	
所在地	〒		E-mail	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/> チェックをしてください。
備考				

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

No.192183

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

開催にあたり

設計を効率化し、高度化していくことは、急務の課題となっています。しかし、設計プロセスの可視化・設計改革に頓挫する企業は後を絶ちません。設計プロセスを可視化し、設計の構造改革を実現させるためには、【正しい改革手法】とそれを実現させる【設計システム】が必要なのです。設計改革の失敗の原因は何か？どのようなコンセプトで改革を進めれば成功に至るのかを解説します。

また、設計システムの代表例である【E-BOM、PDM、3D-CAD】も多くの企業で失敗をしています。導入はしたが業務改革は進まず、場合によっては【登録の手間だけ増え、肝心の設計力を弱体化させてしまった】ケースも少なくありません。設計の業務改革を支える設計システムのあるべき姿とは何か、どのようなシステム全体像を描くべきなのか、IoTやAIなど将来的な視点にたったときにどのような設計システムのロードマップにすべきかについて解説します。業務とシステムの両側面から成功に至る改革に必要な視点を学んでください。

※本セミナーは製造業に従事されている方を対象とした講座です。

講師とご同業の方および同業に近い方などその他弊社の判断により、セミナーへのご参加をご遠慮いただく場合がございます。

受講
対象

・組立製造業 ・経営者(CTO、CIO、CFO) ・開発部門 ・設計部門 ・設計管理部門の管理職から担当
・情報システム部門の管理職から担当 ・経営改革 ・業務改革に携わっている管理職から担当

講師

プリバクト 代表 北山 一真 氏

【略歴】 技術経営コンサルタント

IT系コンサルティング会社、製造業系PLMコンサルティング会社ディレクターを経て、プリバクトを設立。

設計と原価の両側面から抜本的な企業変革に取り組む。設計標準化/高度化、MD、製品開発マネジメント、原価企画/原価見積、管理会計などを得意とする。

東京大学ものづくり経営研究センター管理会計研究会員、日本モジュラーデザイン研究会員、日本管理会計学会員、日本原価計算研究学会員 など

【専門】 製品開発マネジメント、設計標準化、製品企画、MD、開発購買、製品情報管理 (BOM)、PLM、顧客価値会計、意思決定会計、原価企画、DTC (DesignTo-Cost)、ライフサイクルコストリング、売価企画、見積管理、品質コストマネジメント、原価管理

【所属】 東京大学ものづくり経営研究センター ものづくり管理会計研究会員/日本管理会計学会員/日本原価計算研究学会員/日本組織会計学会員/J-Cost 研究会員

【著書】 『赤字製品をやめたら、もっと赤字が増えた!儲かる製品を実現するコストマネジメント』(日刊工業新聞 2009年)、『ものづくり復活の会計術』(日経BP社 ものづくりTech-on 2010年)、『再考・原価低減 コストのわかる設計者になろう』(日刊工業新聞社 機械設計 2010年-2011年)、『ITアーキテクトのやっつけはけない 第4章業務分析、要件定義』(執筆協力 日経BPMック 2011年)、『プロジェクト・マネージャの「やっつけはけない」』(執筆協力 日経BP社 ITpro 2012年)、『プロフィットブル・デザイナー利益獲得設計』(日経テクノロジーオンライン 2015年) など多数

プログラム

< 基礎編 >

1. 間違いだらけの設計改革

- (1) 改革の本丸から目をそむける「間接業務の改革」
- (2) テクノロジー活用が遅れた「昭和な業務」

2. 間違いだらけの設計システム

- (1) E-BOMが単なる手配ツールになっている
- (2) PDMが単なる共有サーバー代わりの器になっている
- (3) 3D-CADが単なる解析や干渉チェック用ツールになっている
- (4) PLMが単なるライフサイクルCADデータ管理になっている

3. 設計改革のあるべきコンセプト

- (1) 設計ナレッジに寄与するシステム
- (2) 設計を情報化し、人間と機械の共存を実現

4. 設計システムのあるべきコンセプト

- (1) プロダクト損益とPLM
- (2) 品質のPDCAを実現させるシステム
- (3) IoT/AI 時代だから考える設計システムのあり方
- (4) PLMとERP連携の本質

5. 効果効果と経営者への理解

- (1) 投資対効果をどのように考えるか?
- (2) 経営者に設計システムをどう理解してもらうか?

< 実践編 >

1. PDM(成果物管理)

- (1) クラウド化で社内外をつなぐ技術図書管理のあり方
- (2) 脱メールによる「設計根拠」の見える化
- (3) 成果物管理とコミュニケーション管理の融合
- (4) クラウドによるコミュニケーション改革
- (5) 図書ベースの納期管理
- (6) 情報のストック化(自然言語解析による図書レコメンド)

2. 3D-CAD

- (1) なぜ3D-CADは導入に失敗するのか?
- (2) 設計意図を管理するCADのあり方
- (3) 標準設計とパラメトリックCAD
- (4) 3D検図

3. BOM(部品表)

- (1) BOMは必要なのか。設計におけるメリットとは
- (2) E-BOMとM-BOMは統合すべきか。わけるべきか
- (3) 設計部品表の大切なこと
 - ・PS(品目構成)とPN(品目コード)の本質
 - ・設計部品表と図面構成表
 - ・管理属性のあるべき姿
- (4) 様々な部品表の違いを知る
 - ・CAD-BOM,D-BOM,E-BOM,P-BOM,M-BOM,S-BOM
- (5) BOMの連携する際のポイント
- (6) 量産企業と個別受注企業での部品表活用の違い